

世界の鍼灸界の状況

中国における COVID-19 に対する中医学・鍼灸の取り組み

渡邊大祐

小雀齋漢方針灸治療院、つくば国際鍼灸研究所、天津中医薬大学針灸標準化研究所

要旨

【はじめに】2019年12月に中国湖北省武漢市で広がり始めた新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、瞬く間に世界中に蔓延した。中国では、湖北省での感染拡大が深刻で、中でも省都武漢市では5万人以上の感染者が確認された。都市封鎖などの措置が取られ、医療チームの活躍もあり、2020年4月末には武漢市での入院患者は0となった。中国では、国を挙げて COVID-19 感染症に対する中西結合治療が迅速に推し進められた。中国全土で確定患者全体の約9割を占める7万4千人に対して中医学による治療が行われ、中医学治療の一部として鍼灸も活用された。また鍼灸は、入院患者への治療だけでなく、予防や回復期における介入としても推奨され実施されている。

【診療ガイドライン】中国国家衛生健康委員会は、2020年1月15日に試行第1版「新型コロナウイルス肺炎診療方案 (COVID-19 に対する診療ガイドライン)」を公表し、矢継早に改訂を行った。「診療ガイドライン試行第3版」では、中医学治療に関する内容が細分化され、中西結合治療の方針を本格的に推し進め始めた。ガイドラインにおける「中医治療」は、全て湯液に関する内容であり、2020年8月20日現在の最新版「試行第8版」においても未だ鍼灸の記載は見られない。中国中医科学院針灸研究所・中国針灸学会などいくつかの公的機関では、鍼灸に関する診療マニュアルを公表している。このうち、中国針灸学会が公表した「新型コロナウイルス肺炎針灸干預的指導意見 (新型コロナウイルス感染症への針灸介入に関する手引き) 第2版」は、WFAS (世界針灸学会連合会) 本部より各国の加盟学術団体に送付されたと思われ、日本国内でも邦訳版が公開されている。国の診療ガイドラインに記載はないものの、各省市の衛生部門が地域の特性にあった「予防ガイドライン」を作成し公表している。この中には、江西省の「江西省新型コロナウイルス感染肺炎中医薬防治方案 (試行第3版)」などのように、薬膳や薬茶などの内容に加え施灸の方法が提示されているものもある。

【武漢における中医学医療チームの活躍】2020年1月末に、中国各地の武漢支援医療隊が武漢入りし、突貫工事で建設された火神山医院や雷神山医院などの専用病院をはじめ、軽症患者の治療を行う方舱医院 (体育館や会議場を急遽改修した臨時医療施設) などで全国から来た支援医療隊の約13%を占める4,900人の中医学医療隊が活動した。中医学医療は、中西医結合の形で軽症・重症者への治療全過程に介入している。方舱医院は16ヶ所つくられ、1万2千人以上の患者を収容したが、なかでも江夏方舱医院は唯一、中医によって管理された臨時医院で、すべての患者に中薬・針灸をはじめ、按摩・刮痧・太極拳・八段錦など中医による全体治療が施された。雷神山医院 C7 病区では、上海中医薬大学附属岳陽中西医結合病院から派遣された医師が針治療を実施し、不眠・焦燥感・偏頭痛や呼吸器症状に効果を発揮したとの報告もある。

【結語】中国では国を挙げて COVID-19 の治療・予防に鍼灸を含む中医学医療の活用を推進している。武漢市では多くの患者に対し鍼灸治療が行われたが、残念なことに慌ただしい臨床現場において、鍼灸治療の詳しい記録は残されていないようだ。今後、中国国内で実施された COVID-19 に対する鍼灸治療の報告がなされることを期待したい。

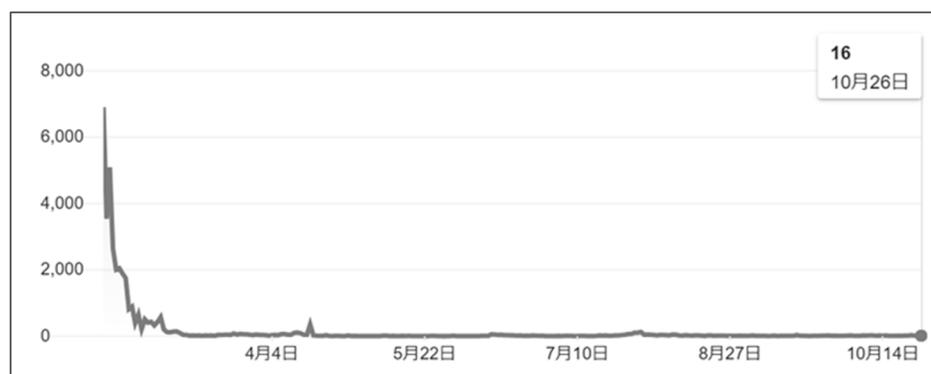
I. はじめに

2019年12月に中国湖北省武漢市で広がり始めた新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、瞬く間に世界中に蔓延し、ジョンズ・ホプキン

ス大学のまとめによれば、2020年10月27日現在の世界の感染者数は4323万人を超え、死者数は115万人を上まわっている。中国では2020年1月以降、湖北省で深刻な感染拡大が進み、省

都武漢市では5万人以上の感染者が確認された。中国当局は1月23日、武漢を出発する全ての旅客機および旅客鉄道の営業を停止すると発表し、同日午前10時から、バスや地下鉄・フェリーなどの運行を停止し武漢市の都市封鎖が行われた。翌1月24日には中国全土から派遣された医療チームが続々と武漢入りしている。急遽建設された専門病院や方舱医院と呼ばれる臨時医療施設などでの懸命の治療活動もあり、2020年4月末には武漢市での入院患者は0となった。2020年10月現在、中国でのCOVID-19感染拡大は、概ね収束しているように見受けられる(表1)。中国は、国を挙げてCOVID-19感染症に対する中西結合治療を迅速に推し進め、3月24日の国務院記者会見によれば、中国全土で確定患者全体の約9割を占める7万4千人に対して中医学による治療が行われた。COVID-19感染症に対する中医学治療の一部として鍼灸も活用されている。また鍼灸は、入院患者への治療だけでなく、予防や回復期における介入としても推奨され実施されている。

表1 中国における一日あたりの新規感染者数の推移
出典: google



II. 診療ガイドライン

1. 国の診療ガイドライン

中国の国家衛生健康委員会(国務院に属す衛生と健康を担当する行政機関)は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生を受け、2020年1月15日に試行第1版の「新型コロナウイルス肺炎診療方案(COVID-19に対する診療ガイドライン)」を作成公表した。このガイドラインは、中国の公的な診療指針で、西洋医学の内容が主体である。その後、1月18日に試行第2版、1月

23日に試行第3版、1月28日に試行第4版、2月5日に試行第5版、2月18日に試行第6版、3月3日に試行第7版を公表したように、経験の蓄積に応じ矢継ぎ早に何度も改訂し、その都度公表している。2020年10月末時点での最新版は8月18日に公表された試行第8版である。中医学治療に関する内容は、試行第1版・試行第2版では一言「症候に基づき弁証施治をする」[1,2]と記載があるに留まっていたが、試行第3版[3]になると、本病は中医の「疫」病の範疇に属し、病因は「疫癘」の氣に感受したことによるものであり、現地の気候や患者の体質に応じて、指針をもとに弁証論治をすすめることなど、中医学的な解釈の記載がなされ、中医学治療もより細分化され、中西医結合治療の方針が明確になった。また、中医学治療に関し、試行第3版では、湿邪鬱肺・邪熱壅肺・毒邪閉肺・内閉外脱の4証の臨床表現・治法・推薦処方などが示されていたが、試行第5版[4]になると治療期を初期(寒湿鬱肺)・中期(疫邪閉肺)・重症期(内閉外脱)・回復期(肺脾氣虚)と分類するようになった。試行第6版[5]以降では、更に細分化された内容となり、医学観察期・治療期・回復期の3期に分けた上でさらに治療期

を軽症(寒湿鬱肺証・湿熱蘊肺証)・一般症(湿毒鬱肺証・寒湿阻肺証)・重症(疫毒閉肺証・氣営両燔証)・重篤(内閉外脱証)に、回復期を肺脾氣虚証・氣陰両虚証に細分化し臨床表現・推薦処方などを記載している。ガイドラインにおける中医治療の記載は、全て中薬(湯液)に関する内容であり、2020年10月末時点での最新版試行第8版[6]においても未だ鍼灸の記載は見られない。

2. 鍼灸関連のガイドライン

国家中医薬管理局・中国中医科学院針灸研究所・中国針灸学会などいくつかの公的機関では、鍼灸に関する診療マニュアルを公表している。国家中医薬管理局は、COVID-19感染症回復期における中医によるリハビリの経験を総括し「新型コロナウイルス肺炎回復期中医康復指導建議(試行)

(新型コロナウイルス感染症回復期における中医リハビリ指導意見(試行))」[7]を公表した。このリハビリ指導意見は COVID-19 に対する診療ガイドラインにおける隔離解除および退院基準を満たした回復期患者を対象としたもので、中薬(湯液)や艾灸療法・経穴推拿・耳穴・刮痧・拔罐・刺鍼療法などの中医物理療法・薬膳指導・八段錦や太極拳などの伝統功法が収載されている(表2)。中国中医科学院針灸研究所は、一般向けに制作された中医養生による COVID-19 感染予防に関する動画「穴位保健和養生功法預防和補助治療新型冠状病毒肺炎(穴位保健と養生功法による新型コロナウイルス感染症の予防と治療補助)」[8]を公式サイトにおいて公開している。この動画では、感染予防・感染後の悪化防止を目的とした体質別のツボ押し配穴や棒灸・箱灸などの操作説明、耳ツボ体操や伝統功法などを分かりやすく紹介している。また、中国針灸学会は、国家衛生健康委員会発行の「COVID-19 に対する診療ガイドライン(試行第6版)」および国家中医薬管理局発行の「新型コロナウイルス感染症回復期における中医リハビリ指導意見(試行)」を基に中医鍼灸の COVID-19 感染症の予防と治療の経験を踏まえ「新型コロナウイルス肺炎針灸干預的指導意見(第二版)(新型コロナウイルス感染症への針灸介入に関する手引き(第2版))」[9]を作成した。手引きには、主に COVID-19 感染症の医学観察期・臨床治療期・回復期など各ステージにおける鍼灸介入(目標・配穴・随症加減など)や医師の指導による在宅患者のセルフ鍼灸介入などが詳しく記載されている。この手引きは世界針灸学会連合会(WFAS)本部より各国の加盟学術団体に送付されたと見られ、日本国内でも日本伝統鍼灸学会などで邦訳版が公開されている。

3. 各地の予防ガイドライン

国の診療ガイドラインに記載はないものの、各省市の衛生部門が地域の特性にあった「予防ガイドライン」を作成し、数多くのガイドラインが広表されている。この中には、江西省の「江西省新型冠状病毒肺炎中医薬防治方案(試行第3版)(江西省新型コロナウイルス感染症中医薬予防治療ガイドライン(試行第3版))」[10]や「四川省新型冠状病毒肺炎中医薬防控

表2 新型コロナウイルス感染症回復期における中医リハビリ指導意見における鍼灸に関する内容

艾灸療法	常用選穴：大椎・肺俞・上腕・中腕・膈俞・足三里・孔最など
刺鍼療法	常用選穴：太淵・曲池・肺俞・足三里・陰陵泉・関元など 随症配穴：乏力・寒がり・舌淡には膈俞・腎俞・大腸俞を加える、食欲不振・泥状便・舌淡には中腕・天枢を加える、咳嗽・咳痰・舌淡には大椎または定喘・膏肓などを加える。膏肓・肺俞・膈俞など穴位部位の筋肉は薄いため、基準通りの操作を心がけ気胸を起こさないよう注意する。

表3 各地のガイドラインにおける施灸(棒灸)に関する内容例

江西省新型コロナウイルス感染症中医薬予防治療ガイドライン(試行第3版)	選穴：中腕・神闕・関元 操作方法：経脈に沿って棒灸を往復させる。施灸の際には穴位部付近に灸熱をゆっくり動かすようにし、熱感により浸透・遠隔に伝わる・拡散・心地よいなどの特殊感覚が生じる位置を探し、重点的に施灸する。 灸量：毎日1回、毎回各穴施灸45分間。
四川省新型コロナウイルス感染症中医薬予防ガイドライン(修訂版)	選穴：中腕・天枢・関元・気海・足三里・三陰交 中腕・天枢・関元・気海には箱灸を採用し、20~30分間施灸する。足三里・三陰交には棒灸を用い10分前後施灸する。毎日1回の施灸を推奨。

技術指南(修訂版)(四川省新型コロナウイルス感染症中医薬予防ガイドライン(修訂版))」[11]などのように、薬膳や薬茶などの内容に加え施灸の方法が提示されているものもある(表3)。

III. 武漢における中医学医療チームの活躍

1. 中医学医療チームの活動

中国最大の COVID-19 感染地区となった武漢市には、2020年1月24日に江西省・湖北省・

山東省・黒龍江省・陝西省などから武漢支援医療隊の第一陣が到着した。武漢市で爆発的に増加する感染者を治療・収容するため突貫工事で2箇所の専門病院が建設された。先に完成したのは火神山医院で、2020年1月23日設立が決定、2月3日には完成し、病床数は1000床[12]。

「火神山」は、楚人の祖先の祝融から命名され、五行相克・火克金から、重度肺炎を引き起こす新型コロナウイルスを制圧する意味合いが込められている[13]。次いで病床数1600床の雷神山医院(2020年1月25日設立決定、2月8日完成)が完成した。武漢では、「発熱患者・感染の疑われる患者・医学観察者・濃厚接触者」を隔離施設へ収容し、診断が確定すれば、重症者は専門病院へ、軽症者は方艙医院(臨時医療施設)にそれぞれ収容して治療を行った[14]。方艙医院は、体育館や会議場を急遽改修した軽症患者用の臨時医療施設で、武漢市内に16ヶ所つくられ、1万2千床以上が提供された。中国各地から派遣された支援医療隊は専門病院・方艙医院で活動を行った。支援医療隊には中医学医療隊も含まれており、支援医療隊全体の約13%を占める4,900人の中医学医療隊が活動した。中医学医療は、中西医結合の形で軽症・重症者への治療全過程に介入している(図1・2)。16ヶ所つくられた方艙医院のひとつ江夏方艙医院は唯一、中医によって管理された臨時医院で、すべての患者に中薬(湯液)だけでなく、針灸をはじめ按摩・刮痧・貼敷など中医学の特徴ある治療法が導入された。また、医療関係者と一緒に太極拳や八段錦を練習して疎通経絡・調理気血させたり、温灸法や耳ツボ療法も取り入れて、患者の咳や頭痛症状、精神的抑うつ感の解消、胃腸機能の改善、睡眠の改善などの取り組みが行われた[15]。寧夏方艙医院に収容された564名の患者では1例も重症化しなかった(重症化率0%。他の方艙医院では9.7%)という[16]。

2. 鍼灸に関する取り組み

武漢市では、多くの患者に対し鍼灸治療が行われたが、慌ただしい臨床現場において、鍼灸治療の詳しい記録はほとんど残されていないようだ。そんな中、雷神山医院での鍼灸の取り組みが中国中医薬報に報じられている。鍼灸治療を得意とする上海中医薬大学附属岳陽中西結合

医院から派遣された医療支援隊は、多くの重症・重篤患者が収容された雷神山医院のC7病区を管轄した。ここではすべての患者に対し鍼灸治療が行われた。医療支援隊が武漢に派遣される前に、岳陽中西結合医院の専門家によって処方箋の選穴案を作成し、通常と違い防護服やグローブ着用での施術となるため、管鍼を用意するなど事前に工夫を施して治療に臨んでいる。鍼灸による不眠・焦燥感・偏頭痛などへの効果は認識されているが、COVID-19特有の呼吸器症状でも効果を発揮した。35歳気虚型の女性は、午前中に胸悶・胸痛があり、夜間になると喘息症状が出現し、中薬(湯液)を服用するも効果はいまひとつであった。そのため、内関・太衝・足三里などに鍼灸治療をすると3日目には改善した[17]。この雷神山医院での中医学医療隊の活動は、臨床報告「針灸療法在新型冠状病毒肺炎中の臨床応用与实践(新型コロナウイルス感染症に対する刺針療法の臨床応用与实践)」[18]として学術誌に掲載されている(表4)。



図1 雷神山医院にて症状改善のための鍼灸治療
出典：看点快報(撮影 何龍)



図2 雷神山医院にて耳穴貼圧をする様子
出典：看点快報(撮影 何龍)

表4 コロナウイルス感染症に対する刺針療法の臨床応用と実践の要約

対象	2020年2月から3月、武漢雷神山医院C7病区で収容・治療した33例。男性8例、女性25例。年齢13-84歳(平均59.4歳)。中等症28例、重症5例。	
治療方法	基礎治療	(湯液) 上海雷神1号方『新型コロナウイルス肺炎診療方案』、必要に応じ現代医学による処置
	刺鍼治療	主穴：列欠・合谷・内関・曲池・足三里・太衝 随症加減：睡眠障害には申脈・照海を加える
		操作：仰臥位にて穴位部位の皮膚を露出させ、75%エタノールで穴位部位と医師の手袋を消毒。0.25×40mm ディスポーザブル管鍼を使用。合谷・内関・曲池・足三里・太衝・申脈・照海には直刺にて12~33mm 刺入、列欠には30°の角度で上へ向け斜刺にて12mm 刺入。平補平瀉法、置鍼30min。毎回片側穴位へ刺鍼、両側を交互に使用。入院から退院時まで、隔日1回。
治療結果	患者33例は全員治癒し退院した。入院日数(9.24±5.57)d。胸悶・胸痛・無力感・動悸・焦燥感・精神緊張・食欲不振・睡眠障害などの症状はいずれも顕著に改善した。刺鍼治療による不良反应などは無かった。	

IV. 結語

中国では国を挙げ COVID-19 の治療・予防に鍼灸を含む中医学医療の活用を推進している。医療制度が日本とは異なり、中国では鍼灸治療は医師、主に鍼灸を専門に学んだ中醫師(中医学の医師)によって行われる保険適用の正規医療である。そのため、COVID-19 感染症患者への治療においても、現代医療や中薬(湯液)と並んで医療現場の最前線で活用されている。鍼灸治療は、入院患者に対し胸痛・無力感・動悸・焦燥感・食欲不振・睡眠障害などの症状改善に役立てられており、退院後のリハビリや予防への活用も複数のガイドラインで推奨されている。武漢市では数多くの患者へ鍼灸治療が行われたが、慌ただしい臨床現場において鍼灸治療の詳細な記録は残されていない。今後、中国国内で実施された COVID-19 に対する鍼灸治療の報告を期待したい。

V. 文献

- [1] 新型コロナウイルス肺炎診療方案(試行第一版)。国家衛生健康委員会弁公庁 中医薬管理局弁公室, 2020
- [2] 新型コロナウイルス肺炎診療方案(試行第二版)。国家衛生健康委員会弁公庁 中医薬管理局弁公室, 2020
- [3] 新型コロナウイルス肺炎診療方案(試行第三版)。国家衛生健康委員会弁公庁 中医薬管理局弁

公室, 2020

- [4] 新型コロナウイルス肺炎診療方案(試行第五版)。国家衛生健康委員会弁公庁 中医薬管理局弁公室, 2020
- [5] 新型コロナウイルス肺炎診療方案(試行第六版)。国家衛生健康委員会弁公庁 中医薬管理局弁公室, 2020
- [6] 新型コロナウイルス肺炎診療方案(試行第八版)。国家衛生健康委員会弁公庁 中医薬管理局弁公室, 2020
- [7] 新型コロナウイルス肺炎恢復期中医康復指導建議(試行)。国家衛生健康委員会弁公庁 中医薬管理局弁公室, 2020
- [8] 中国中医科学院針灸研究所。「穴位保健和養生功法預防和補助治療新型冠状病毒肺炎」. <http://www.acuworld.ac.cn/zxdt/1081.jhtml>, (参照 2020-10-27)
- [9] 新型コロナウイルス肺炎針灸干預の指導意見(第二版)。中国針灸学会, 2020
- [10] 江西省新型冠状病毒感染肺炎中医薬防治方案(試行第三版)。江西省中医薬管理局, 2020
- [11] 四川省新型冠状病毒肺炎中医薬防控技術指南(修訂版)。四川省中医薬管理局, 2020
- [12] 澎湃新聞網。「武漢小湯山医院定名火神山医院, 可容納1000張床位」. https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_5624326, (参照 2020-10-27)

- [13] 網易新聞. 「独家揭秘：“火神山”、“雷神山”名字怎么来的？」. <https://news.163.com/20/0126/09/F3QC4R4F00018990.html>, (参照 2020-10-27)
- [14] 中医臨床編集部. 新型コロナウイルス感染症と中医学. 中医臨床. 2020;41(2):2-6
- [15] 藤田康介. 中国における COVID-19 に対する中医学の取り組みを振り返って. 中医臨床. 2020;41(2):7-20
- [16] 張伯礼: 特別講座: 中西医結合救治新冠肺炎-中国方案的亮点 (邦題: COVID-19 に対する中西医結合治療-中国方式の輝き). http://www.chuui.co.jp/chuui_plus/COVID-19_cure_chou.pdf
- [17] “上海經驗”帶進雷神山. 中国中医薬報, 2020. 4. 1
- [18] 龔璽斌, 侍鑫傑ら. 針刺療法在新型冠状病毒肺炎中的臨床応用与实践. 中国針灸. 2020